研究情報の公開（オプトアウト）について

臨床研究のうち、患者様への侵襲や介入もなく診療情報等の情報のみを用いる研究では、国が定めた指針において、対象となる患者さまに研究に関する情報を公開した上で、拒否の機会を保障することが必要とされています。このような手法を「オプトアウト」といいます。以下の研究への協力を希望されない場合は、お手数ですが下記までお問い合わせをお願い致します。

研究のテーマ （研究番号）	「当院装具外来におけるマネジメント業務の分析と運用効率化への試み」 （承認番号：初 2026－22）
研究責任者	理学療法士　野間貴雄
研究の目的 及び意義	回復期リハビリテーション病棟において作製された下肢装具は、退院後の生活期においても継続的な適合確認やメンテナンス、必要に応じた再作製が不可欠である。しかし、生活期における装具管理には、その状況によって、医療保険での作製が可能か、または障害者総合支援法等における事前手続きの煩雑さといった制度的課題が存在する。加えて、装具外来利用者の介護保険のリハ利用の確認、それに伴う費用・リハ算定の制約など、確認事項は多岐にわたる。 当院では装具外来という名目で、外来部門でそのフォローアップを行っているが、近年の利用件数増加に伴い、外来管理業務の負担拡大が懸念されている。特に「電話による制度・手続きの説明コスト」や「医師・理学療法士・義肢装具士・患者の 4 者による日程調整の難しさ」といった受動的な受付体制による業務の課題が浮き彫りとなっている。回復期から生活期へ切れ目なく装具管理を引き継ぐためには、装具外来におけるマネジメント業務の可視化と運用効率化が急務である。 そこで今回、2023 年度から 2025 年度の 3 年間の装具外来利用データに基づき、外来管理業務におけるボトルネック（問い合わせ内容、作製および調整件数、制度別割合等）を可視化・分類する。将来的な能動的アウトリーチ（地域や回復期病棟への働きかけ）体制構築に向けた管理上にむけた実態調査を主な目的とする。
研究期間	2023 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日まで
研究の対象となる 患者様	対象：2023～2025 年度に装具外来の利用した症例 ※装具外来の定義：以下の条件を満たし、装具の修正、相談、新規作成等が目的で当院来院し、装具業者または当院スタッフが対応したもの ・当院入院中でないもの ・当院外来リハで理学療法の処方がないもの
使用させて いただきたい情報	調査項目（診療録からの後方視的調査） ・装具外来利用件数（うち、装具業者のみで対応したもの、当院スタッフが関わったものを分けて集計する） ・装具種類 ・障害福祉（補装具費支給制度）等の割合 ・介護保険併用（リハ料不算定枠） ・装具外来利用理由（「フォローアップ」「新規装具作製希望」「耐用年数」

	「適合不良」「破損」「歩容変化」「劣化」に分類） ・装具外来利用判断者（「本人」「家族」「地域専門職」「当院スタッフ」に分類） ・装具使用困難により新規装具作成となった症例数
個人情報の 取り扱い	・調査データは匿名化し、具体的な個人情報は他者に一切知られないようにする。また得られたデータは管理上の通し番号を付加し、処理する。 ・得られたデータは院内共有サーバー内に入力・保存する。外部に持ち出す際には、法人のパスワード付き USB を使用する。研究終了後はサーバー内データを削除するとともに、印刷した書類等はシュレッダー処理を行う。 ・得られた情報は研究以外の目的では使用しない。 ・研究結果は学会等で公表されるが、個人が特定できるような発表は行わない。
お問い合わせ先	担当者：医療法人社団輝生会　初台リハビリテーション病院 理学療法士　野間貴雄 電話番号： 03-5365-8500